

## 11 番（小川義昭君）

先ほどの市長の答弁が消極的ですので、どうしてもやはり教育長としてもそういう答弁をしないかなというふうに私自身感じました。

ですけれども、しっかりとやはり当然市民の人たちもそう思っているんです。先ほどのですけれども、文化会館が教育委員会所管のところだということを市民の人たちはそういった思いは恐らくないんじゃないかな。これも後で質問に出てきますけれども。

いずれにしても、ぜひ教育委員会はあくまでも義務教育に特化する、そしてあとのことについては市長部局に行く、これがやっぱりこれからの白山市の姿じゃないかなと私は思っておりますけれども、ぜひよろしく願いいたします。

次に、4番目、最後の質問であります。

J R松任駅の南北で進められた土地区画整理事業は、北陸新幹線金沢開業を目指して駅南北地区の分断を解消するための地下道路金剣線、橋上駅、南北自由通路、駅南北広場、駅前ロータリー、そして都市計画道路金沢小松線及び駅南地区のシンボルロードとなる蕪城通り線の整備などが行われ、平成28年をもって完成し、松任駅から千代尼通り商店街一帯を回遊できるインフラの整備が完成いたしました。

駅南地区は文化ゾーンと言われており、中川一政記念美術館、松任ふるさと館、千代女の里俳句館、市民工房うるわし、松任図書館、コンサートホールを有する松任学習センター、白山市立博物館、松任城址公園、そして先月1日にリニューアルされた松任文化会館といった本市の文化芸術活動の中心的な役割を担っている文化施設が集積しています。松任駅周辺のインフラ整備も整い、行政としても文化ゾーンの利活用策を積極的に促進されていると思いますが、残念なことに継続的な駅周辺の文化ゾーンのにぎわいが見受けられません。

確かにイベント開催時には周辺一帯のにぎわいは大変なものですが、常時、市内外からの人たちが文化ゾーンを中心に集うような状況をつくるための地域活性化策が必要であり、市内全域においてその可能性を秘めている唯一の地域一帯であります。

私、平成21年の9月議会で、文化ゾーンのにぎわい創出には公共施設の集積メリットを生かした連携、一体的な交流、運営管理体制を検討すべきだとただしましたが、これに対し、商工会等々の各種団体に働きかけ、協議会を設置し、にぎわいの創出につながる企画、運営に努めるとの御答弁を頂戴しています。しかしながら、9年間も経過しているにもかかわらず、いまだにその成果があらわれていないように感じ、強く危惧しています。

そこで、質問いたします。

文化ゾーンの地域活性化策を促進するために協議会は年間に何回開催し、これまでに何回開催されとるか、そのメンバー構成はどのようなようになっており、どのような協議がなされ、協議での成果はどのようにあらわれているのかお伺いいたします。

次に、J R松任駅周辺の松任文化会館を初め公共施設利用者のための駐車可能台数は、普通自動車 906 台、大型バス 9 台とのことです。しかも、松任文化会館は収容客席 1, 200 席、松任学習センターのコンサートホールが 356 席、ライブシアターなど 160 席を数えるのに対して、これら施設が同時に利用され、約 2, 000 人近くの人たちが駅周辺の文化ゾーンに集った場合、全ての人が自動車利用ではないにしろ、駐車可能台数が大きく不足していることは否めません。駅周辺で大きなイベントを開催するにしても現在の駐車可能台数は少な過ぎますし、駅周辺の文化ゾーンのにぎわいが経常的に創出できないのは、駐車場が大いに不足していることが大きな要因の一つでもあり切っているといえるでしょう。

当然のことながら、この周辺に集積する文化施設は所管が市長部局、教育委員会に分かれているとの実情があり、これに伴う一元管理の難しさが駅周辺の貴重な文化ゾーンの整備、発展の足かせとなり、にぎわいの創出につながらないことは指摘するまでもありません。

先ほども質問したように松任文化会館、松任学習センターなどを所管している生涯学習課の市長部局への移管が肝要であり、その上で駅周辺の文化ゾーンの地域活性化策を推進するため、環境整備にふさわしい組織のありようを見直し、住民参加による体制づくりを前提とし、ぜひ持続可能な開発目標 S D G s に向けた取り組みとして、松任文化会館を中心とした駐車場の整備計画を改めて提言するものであります。

また、駅周辺のにぎわいが醸し出されますと、おのずと市長の公約であります駅前交番が実現できるわけであります。市長の見解をお伺いいたします。